うきたむ

第65号
2025.7.15

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高畠町大字安久津 2117　TEL 0238 － 52 － 2585
FAX 0238 － 52 － 4665
URL http://ukitamu.pupu.jp/

▲時空を超えて

「恥ずかしながら、帰ってきました」

うきたむ風土記の丘考古資料館館長代理　小林　貴宏

ご無沙汰しておりました。このたび、考古資料館館長代理になりました小林貴宏です。

かつて本館に文化課主事として異動してきたのは２０００（平成12）年４月のことです。同年は、総合的な学習の本格化、赤ちゃん手形開始、山形の発掘〈調査検討会〉の開始の年でした。その後も東北中世考古学会の城館シンポジウムや、南東北の卒論報告会、お雛巡り、自主講座による研修事業などなど、当時どれも若気の勢いで、10回やって1回うまくいけば良いという具合であちゃこっちゃ取り組んでいました。

そんななかの２００４年、中越地震を本館で執務中に迎えたことを契機に、東日本大震災を挟んでの20年間は文化財レスキューにかかわり、考古資料館には、顔も出すこともほとんどありませんでした。

そんななか、このたび館長代理に就きました。と言っても名ばかりであり、なにもかも館職員、県や町の担当者に任せてばかりです。皆さん優秀ですので、根幹の活動について口を出すこともない。口に出すのは実務的なことばかりです。

あんなことをした、この道を歩いた、あの土器を見た、と25年前あたりのことを思い出すことがあります。大震災の文化財レスキューの折も、身体の具合を悪くした折も、娘のための育児・家事に追われる今日も、25年前の恥ずかしく、愚かしく、楽しい記憶が私を支えていた（る）もののひとつです。

考古資料館30年の歩みは、「ひとりでも多くの方に、考古資料館における文化財・歴史の学びや体験を通して、偏狭や憎悪ではなく、学術に基づき、いまと未来の世界をより良いものとしようという希望と、ぬくもりある楽しい良い思い出をつくってもらいたい」、そういう蓄積であったと思います。その想いを浴びるように生きてきた一人として、引き続き、挑戦できる資料館づくりができるよう、とりくんでいきます。

最後に。屋根や空調機の改修など、設置者である山形県には、たいへんな財政状況のなか、頑張っていただきました。目立たないですが、そんな支えをしてくださった多くの方が居ます。多くの方の想いを載せる考古資料館、ひきつづきよろしくお願いします。

特別テーマ展

「遊佐町の考古学Ⅱ

―弥生時代から中世の遊佐町―」

令和7年6月14日（土）～9月7日（日）

旧石器時代から中世まで多くの遺跡の発掘調査が行われている遊佐町の考古資料のうち、今年度はその2回目として弥生時代から中世の出土品を展示します。

今回の展示構成は十章としました。

第一章　弥生・古墳・奈良時代前半の遊佐町

弥生時代では前期の神矢田遺跡、中期の柴燈林5遺跡、後期の袋冷遺跡の土器を展示しています。古墳時代では致道博物館に収蔵されている丸池出土といわれている勾玉・管玉・金環を展示しています。また、恐らく奈良時代の前半に遡ると見られる吹浦沖の海底から引き上げられた須恵器甕と、八世紀代とみられる酒田市の指定文化財に指定されている三崎山から採取された蕨手刀を展示しています。

第二章　奈良時代後半の遊佐町

奈良時代の遺跡も多くはありませんが、この時期の最も古い八世紀第3四半期に遡る須恵器が剣龍神社西窯跡から採集されています。また、第3～4半期には吹浦遺跡で集落が営まれ、上高田遺跡の旧河川跡の最下層から土器が出土しています。これらの図面や写真と共に土器を展示しています。

第三章　平安時代の遊佐町の供膳器の変遷

平安時代に入ると調査遺跡数は爆発的に増加します。九世紀の第1四半期から十世紀末、そして十一世紀代に入ると考えられる供膳具を四半期毎に分けて展示しています。

九世紀第1四半期の宮ノ下遺跡、第2四半期の地正面遺跡、第3四半期の地正面遺跡、北目長田遺跡、第4四半期の下長橋遺跡、大坪遺跡の土器を、十世紀では第1四半期の下長橋遺跡、第2四半期の小深田遺跡と下長橋遺跡、第3四半期から第4四半期を経て、十一世紀代に及ぶと見られる下長橋遺跡の土器を各遺跡の図面や写真のパネルと共に展示しています。

第四章　奈良・平安時代の煮沸具と貯蔵具

煮沸具である土師器や赤焼土器はその多くが破片で出土するため、展示できる資料は多くはありません。

奈良時代に遡る可能性がある吹浦遺跡の土師器、平安時代の上高田遺跡や東田遺跡の小形から中形の甕、小深田遺跡や東田遺跡の赤焼土器の甕や羽釜、大坪遺跡や東田遺跡の赤焼土器の堝を展示しています。

貯蔵具では奈良時代に遡る小深田遺跡ＳＫ１５６、ＳＤ２６５、ＳＤ４００出土の短頸壺や壺、平安時代の東田遺跡、上高田遺跡須恵器の壺や甕に加え、堂田遺跡の珍しい鳥形須恵器を展示しています。

第五章　平安時代の木製品

木製品は乾燥と湿潤を繰り返す通常の遺跡では腐朽して残りませんが、旧河川跡や井戸跡など水漬けで湿潤な環境が保たれているところでは長い年月が経過しても残ります。

第一節　建築部材では上高田遺跡建築部材を、第二節　農耕用具では上

▲吹浦沖から引き上げられた須恵器甕

高田遺跡・宮ノ下遺跡の農耕用具である鋤や鍬、鎌の柄を、第三節　狩猟具では上高田遺跡の木製の弓を展示しています。第四節　器と台所では宮ノ下遺跡・上高田遺跡河川跡から出土した木製の蓋、皿、椀、曲物、瓢箪の柄杓、火鑽臼などを展示しています。

第六章　地鎮の土器

遊佐町の遺跡では地震で倒壊し、柱を埋めた「掘り方」が大きく変形した痕跡が下長橋遺跡、浮橋遺跡で確認されています。また、地鎮祭祀後の一括廃棄と考えられる遺構が上記2遺跡に加え、東田遺跡でも検出されています。ここでは東田遺跡と下長橋遺跡から出土した地鎮祭に使われたとみられる土器を展示しています。

第七章　平安時代の遊佐町の生産・手仕事・装身・陶硯・金属製品

製塩土器や漁具としての土錘、鍛冶用具、紡織具、刷毛やヘラなど手仕事で使われた品々、身を飾った石帯や帯金具、櫛、下駄を、陶硯では円面硯、二面硯、風字硯を、金属器では鉄鏃、鍬先、刀子を、また古銭では皇朝一二銭のひとつの「隆平永寶」と渡来銭を展示しています。

第八章　平安時代の遊佐町の祈りに関わる木製品・木簡・墨書土器

▲稲の品種「畔越」が書かれた木簡

祈りに使われた木製品、文字が記された木簡、同じく文字が記された土器を展示しています。祈りに使われた木製品では宮ノ下遺跡の仏画のある板・棓（つえ）、上高田遺跡の人形・武器形・馬形・斎串を木簡では日付や大伴の姓、出羽国から中央に収められた甘味料アマズラが記された木簡、稲の品種が記された木簡を展示しています。また、遊佐町からは千二百点以上の墨書土器が出土していますが、その中で代表的なものを展示しています。

第九章　平安時代の遊佐町の施釉陶器

大坪遺跡や、東田遺跡の灰釉陶器、宮ノ下遺跡、東田遺跡の緑釉陶器、下長橋遺跡の灰釉陶器、緑釉陶器を展示しています。

第十章　中世の遊佐町

大楯遺跡の出土品

第一節　かわらけでは多量に出土しているかわらけのうち、完形の手づくね、ロクロ成形の代表的なかわらけを展示していいます。第二節　国産陶器では珠洲、瀬戸、越前の陶器（壺、甕、擂鉢、皿、水瓶）を展示しています。第三節　木製品では木製皿、漆器皿、小椀、下駄、箆、糸巻、人形、砧を一部はシーラーパックにいれたまま展示しています。第四節　輸入磁器・硯・墨書板・鉄製品・古銭では輸入磁器の龍泉窯の青磁の碗、皿、青白磁の碗・皿、同安窯の埦・皿、白磁碗・皿合子等を、墨書板では将棋の駒や「ほろは」と書かれた遊佐荘に課せられた年貢の一つの鷲羽のつけ札、「保元」の紀年名のある折敷の破片などを展示しています。

催し物のご案内

今後の催し物です。興味のあるものがございましたら、お問い合わせください。

◇第33回企画展
9月13日(土)～11月30日(日)

◇第27期考古学セミナー
9月21日・28日・10月5日(日)

◇秋の遺跡めぐり
10月19日(日)

◇勾玉・弓矢・石器をつくろう！
11月3日(祝)

◇企画展記念講演会
11月9日(日)

◇ガラス玉をつくろう！
11月15日(土)

◇コースター・ブレスレットをつくろう！
11月29日(土)

◇大人の自由研究②
11月22日・30日・12月7日

第33回企画展

縄文時代草創期の石器工房

―日向洞窟遺跡西地区―

令和7年9月13日（土）～11月30日（日）

令和6年度に「日向洞窟遺跡西地区発掘調査報告書」が刊行されました。第33回企画展ではこの調査成果を多くの皆さまに知っていただくことを目的として開催することといたしました。

展示構成は次のとおりとします。

序　章　日向洞窟遺跡西地区の調査と縄文時代草創期遺跡群

日向洞窟遺跡西地区の発掘調査の経過を振り返ると共に、大谷地周辺の草創期遺跡の概要を図と写真で紹介します。

▲石斧

第一章　日向洞窟遺跡西地区出土の土器

西地区の草創期の土器は脆弱で展示できるものも多くはありません。ここではⅥ層（草創期）の土器と早期以降の出土土器も展示します。

第二章　日向洞窟遺跡西地区住居跡出土の石器

日向洞窟遺跡西地区では竪穴状に掘り窪められた遺構が検出されましたが、この内、ＳＴ４から出土した尖頭器、有舌尖頭器、半月形石器、石鏃、石錐、掻器、削器、礫石器等を展示します

第３章　日向洞窟遺跡西地区土坑出土の石器

同じく土坑として登録された遺構からも、石器の出土があります。このＳＫ11～15から出土した石器群を展示します。

第４章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(1)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層から出土したⅠ～Ⅳ類の尖頭器とⅠ～Ⅱ類の有舌尖頭器、Ⅰ～Ⅱ類の半月形石器を展示します。

第５章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(2)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層から出土したⅠ～Ⅶ類の石鏃を展示します。

第６章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(3)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土のⅠ～Ⅴ類の石錐を展示します。

第７章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(4)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土のⅠ～Ⅶ類の掻器を展示します。

第８章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(5)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土のⅠ～Ⅵ類の削器を展示します。

第９章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(6)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土のⅠ～Ⅵ類の篦形石器を展示します。

第10章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(7)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土のⅠ～Ⅵ類の両面加工石器を展示します。

第11章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(8)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土のⅠ～Ⅱ類の石斧を展示します。

第12章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の石器(9)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の礫石器の有溝砥石・砥石・敲石凹石・磨石・石皿・礫を展示します。

第13章　日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層以外出土の石器(10)

上層から出土した石器を展示します。

▲尖頭器

一念峰

米沢市大字上和田　●開山伝貞観二年（平安時代）

米沢市の北東部、高畠町の境界近くに標高470mの奇岩の山があります。名は一念峰、近くの案内板（米沢市教育委員会）によれば慈覚大師が貞観二年（八六〇）この霊場に篭ると一年にして山寺に転ぜられたので一念（一年）峰と称するようになったという伝説があります。

米沢方面から米沢高畠線を通り高畠方面に向かう途中に一念峰の標識があります。標識を辿り上海上集落からの登山道を登るのが一般的なコースとなっています。登山口は10台程度の駐車スペースがあります。登り始めて石灯籠を過ぎしばらくすると一念峰本堂跡地、地蔵岩には石仏が安置されており、仏教的な意味合いを強く感じられます。登っていくと徐々に勾配がきつくなり凝灰岩の奇岩が表れます。峰まで登ればさらに多くの奇岩が出現します。屏風岩、かえる岩、幕岩、護摩壇岩、天狗の相撲取り岩、合掌岩、そして一際大きな天狗岩が表れます。そこを巻いて岩の割れ目を這いつくばる格好で潜り抜け、最後にその岩を鎖を頼りに一気に登れば頂上に達します。北は月山、葉山、東には蔵王山、西は朝日連峰、南に飯豊、吾妻連峰と360度見渡すことが出来、圧巻です。また、頂上直下は断崖絶壁となっており標高差以上の達成感を感じることが出来ます。

▲一念峰全景

▲紙飛ばし岩

低山ではありますが鎖場、鉄梯子を登ったり、肝を冷やす危険箇所も多く、緊張、集中の時間を体験します。山岳信仰の修験の山の意味合いが深く規模は小さいですが山寺、吉野山岳信仰の修験道と非常によく似ています。

尚、当館隣の安久津八幡神社の前身である阿弥陀堂は貞観二年慈覚大師創建、また、山寺宝珠山立石寺も貞観二年慈覚大師の創建と伝わっています。実は、創建を貞観二年とする寺院は全国至る所にあります。時の摂政、藤原良房が全国の寺院に対して、修理保全をして、最勝王経を奉読し、国家安泰、鎮護国家の祈りを奉げるように命じた年であり、これが貞観二年の年号が強く残っている理由と考えられます。

山形県内には慈覚大師円仁の史跡旧跡が多く点在しています。先人の足跡を辿ることは意味深いものとなるかも知れません。

我が館の展示品（53）

石包丁

弥生時代中期　●南陽市　萩生田遺跡

現在、価格高騰品薄感で社会問題化しております米ですが、水田でコメつくりが始まったのは弥生時代です。弥生時代中期の水田は区画を小さくして管理しやすいようにし、籾をじかまきしていました。このころの東北地方は寒冷期が続き、稲の成長にばらつきがあることから一斉に刈り取ることができなかったので、実った穂だけを順に刈り取る方法で収穫をしていました。これを穂狩りといいます。刈り取る道具を「石包丁」といい南陽市萩生田遺跡から出土しております。二か所の穴に紐を通し紐を手にかけて使用します。名前は「包丁」とついていますが、実際は穂を摘み取るための道具でした。

▲萩生田遺跡出土の石包丁